



夢★きらめくために

No. 13

加東市教育委員会/加東市人権・同和教育研究協議会 平成24年3月1日



東古瀬保育園の公開保育

『見て、聴いて、感じて、観えてくる子どもの心』

目次

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ● 市同教の活動…………… 2・3 | ● 講演会…………… 7 |
| ● 市同教・企業人権…………… 4 | ● 人権啓発作品…………… 8~11 |
| ● 学校教育部会・心の窓…………… 5 | ● 中学生の人権作文…………… 12~15 |
| ● 市民人権講座修了者…………… 6 | ● 新着ビデオ紹介・実施計画…………… 16 |

加東市の宝

加東市教育委員 内橋恵子

新たなステージに立った今だからこそ、この愛するふるさとの地でもう一度自分という人間を見つめなおし、他者への思いやりと愛情を胸に、生きたくても生きることでなかつた方々の明日という未来を私たちは恥じることはない生き方で大切に生きていきたいです。

これは、新成人代表田中志穂さんによる誓いの言葉の一文です。両親、友達、諸先生方、地域のみなさんへの感謝に始まり、昨年の東日本大震災を受けてのゆるぎない決意表明に、清々しい感動を覚えると共に、そんな「加東市の宝」が着実に育っていることに誇りを感じました。

きつと幼少の頃から、
 ・ルールを守れる子
 ・人の痛みがわかる子
 ・感謝できる子
 ・命を大切にできる子
 を目指し、親御さんが子育てをなさったのでは、ないでしょうか。

人権は、まず家庭から。さらに、家庭、地域と連携し、「生きたくても生きることでなかつた方々」に思いを馳せることでできる優しさや未来を切り拓ける強さを持った「加東市の宝」を育てていきましょう。

高めよう人権意識、広げよう交流の輪

加東市人権・同和教育研究協議会

地区住民学習から

住民学習の実施状況

(24年1月末現在)

長期にわたる開催へのマンネリ化等で、学習会の開催案内をしても人が集まらない現実があり、参加者の確保に苦労されている。

そんな中、地区の初集会・総会・役員会やバス旅行等多くの住民が集まる機会をうまく利用して、人権ビデオを視聴してもらおうなどの工夫された取組が見られました。

また、住みよいまちづくりをめざしての取組と連携して、地区をあげての「ふれあい祭り」「伝統行事」の実施や「ふれあいサロン」の会場で人権啓発パネルを展示するなど特色ある取組を工夫した地区もあります。さらに、昨年につき、年間を通じた「人権啓発誌」

や「地区だより」を発行しての啓発や報告をされた地区もあります。



学習内容

①「クリームパン」を視聴して

69地区で72回、延べ約2472人がビデオを視聴して、感想を出し合ったり、登場人物の今後を想像するなどの学習が行われました。

《主な感想》(抜粋)

●昔は子どもを叱るかたがたくさんいました。今は自分の子を叱らず、叱ってくれた人にも礼を言わない。勇氣と思いやりを持って面倒なことにも立ち向かって命を救ってくれたパン屋のおばちゃん。今こそ求められています。

●人生どなたに会えるか、その出会いがその人の一生に影響(好転)を与えるかがよくわかった。

●わが子が虐待することのないように祈るばかり。「幸福」とは何かを改めて考えていく必要があるのでは。

●子どもは親の持ち物ではない。親の身勝手でも子どもを犠牲にしないように…。

●「おばちゃん、またクリームパン焼いてね!」の一言が心に残っている。

●子どもが親を信じる心はすごいものです。その気持ちを裏切らずに大切に育てるのが親の務めである。

●子どもや若者だけでなく、大人までもが「いのち」の尊さに気づいていないのではないか。今一度「いのち」の尊さを考えたい。

●命の大切さ、日本人の和の精神はすばらしい。地域のつながりが大切、その点、田舎はいいなあ。

●虐待としつけは紙一重。愛情が無ければ、ただのストレスのはけ口ではないか。

●「児童虐待など身近になり」と言い切れない世の中、「いじめは近くにあるかも」と考えたほうがいい時代になっている。地域に根ざした高齢者のコミュニケーションが虐待やいじめを見つければ、未然に防ぎきつかけとなる。

●若い内は誰でもお節介を避けたがるが、敢えてお節介が当たり前の社会も、今の時代必要ではないか。せめて、関心を持つことが必要ですね。



●本当にあそこまで人のことに関われるだろうか。なんとなくハッピーエンドだけれど、その後の展開はどうなるの？

●ドラマのその後を考えてみた。公佑はパン屋の後継者となり、自分にふさわしい女性とめぐり合う。武史の母も恋人と別れてシングル

ルマザーとなるのでは…。
●現在の問題点をとらえた良い教材でした。人を生かすも殺すも人と人との関わり方次第。

●今の時代を生きていける逞しい子どもを育てていくことが根本の問題です。孤立している人には「自分は大切な人だ!」と感じさせ、社会から決して見捨てられないことを知らせることで、生きていく自信につながるはず。

●社会に犠牲者を助けるシステムや組織があるのか、うまく活用されているのか。子育ての悩みを相談できる親同士の仲間づくりが必要ですね。

●虐待やいじめを目撃しても通報するのは戸惑ってしまうかもしれない。その親も社会や地域から孤立している場合が多いと思うので、虐待やいじめのない社会を作るため人と人がつながっていくことが必要では。

●珠子さんのような人が増えれば、地域は明るくなる。

②他のビデオを視聴して

16地区で20回、延べ494人が「日常の人権Ⅰ・Ⅱ」「老いを素敵に」「ひびけ和だいこ」「母べえ」「私の中の差別意識」「ボクとガク」「男と女、どっちが得」「よいいドン」「街かどから」などのビデオを視聴して学習されました。

③講演会等

講師を招いての講演会が14地区(858名)で実施されました。

演題は、「人権を意識した地域づくり」「同和問題のこれから」という人権そのものに関わる内容から、地域のニーズに応じた「防犯について」「振り込め詐欺防止」「生きるとは」「心の伝え方」「先祖供養」など様々な内容です。本年度は「拉致」を演題とした講演会も企画・実践されました。

さらに、郷土の歴史(神社や構築物、伝承や記念碑)を学ぶことを通して、文化

を次世代につないでいこうとする目標をもたれた地域の学習成果も特徴的でした。

このほか、パンフレットやイラストマップを使っての人権学習・グループ討議をする地区もありました。

《主な講師》

亀田隆光さん、内藤晴樹さん、堀井洋一さん、尾城文雄さん、河本栄味子さん、小谷英進さん、小林伶子さん、有本恵子さんのご両親、鎌田・名村駐在さん(順不同)
その他に区長、学校関係者、行政職員も講師として参加。

ふれあい活動

各地区で、住みよいまちづくりをめざして、人権尊重の理念にもとづいた様々なふれあい活動が実施されました。とりわけ、各地区で普段接することの少ない三世代の人々が交流し合う場が数多く設定され、明るく豊かな人間関係を築いていこうとする意欲的な取り組みが報告されました。

《主な実践活動》

- スポーツ活動
- バレー、グラウンドゴルフ、ボーリングなど
- 伝統行事の継承、祭り
- 文化及び多文化共生の活動(料理、天体観測等)
- ふれあいの集い
- 池さらえと魚つかみ

昔の遊び

●その他

- ふれあいバスツアー
- ふれあいサロン
- 沿道の花壇作り
- クリーンキャンペーン
- サツマイモの栽培と収穫祭、ソバ打ち
- 隣接地区との交流
- ハイキング・登山

●交流盆踊り

啓発紙の発行

啓発誌「○○地区だより」等を発刊し、人権意識の高揚を図るとともに、不参加者にも事業の報告をして、今後の参加を促す地域もあつた。



住民学習の発表!

日時 平成24年

2月4日(土)

場所 滝野文化会館

梶原(氷見さん)、高岡(稲次さん)、岩屋(片山さん)の三地区より取組を発表していただきました。お疲れ様でした。来年度の参考にさせていただきます。



加東市消防団 人権学習会

2月12日(日)

「二箇目の生存者
〜出会い・つながり・
前進・伝えたい想い〜」

講師 山下 亮輔さん

●2005年4月25日、JR福知山線脱線事故は多くの人の命を奪い、多くの人の心と体に傷を残しました。この事故による犠牲者であり、生存者のうちの一人でもある山下亮輔さんの講演でした。



●激痛に耐えながら必死でリハビリを行う中で、足に液体がたまり、リハビリを中断することになったとき、

本当に歩けるようになるのか、と絶望されたそうです。

看護師さん、家族や医師が事故への思いや将来への不安に真剣に耳を傾け、話を聞いてもらうことにより心のモヤモヤが無くなり「くじけずに頑張ろう」と思えるようになり、挫折を乗り越えることができたそうです。



●山下さんは、苦しいときでも人に「伝える」ことで状況が良くなる。「僕のように特別な経験をしていなくても、周りの人に相談することは必ずできる。困難に直面したとき、この講演を思い出してください」と最後に参加者に向けて熱いメッセージを送られました。

加東市企業人権 教育協議会の活動

■管外研修(11月8日)

「長島愛生園」を訪問

私たちが企人協は、加東市同教、人権擁護委員の方々と同山県瀬戸内市にある「国立療養所長島愛生園」同じ備前市の「旧閑谷学校」へ合同視察研修に出かけました。



長島愛生園では、学芸員の方より資料・施設を見ながら丁寧な案内や詳しい解説を受け、ハンセン病について正しい認識を持つことができました。

ハンセン病を発病された方が、病気は完治したが体

に障害が残る障害者として現在もひどい差別を受けていること、無知な人たちが差別し続けている事実など他の人権問題での差別構造と同じであることを学ぶことができました。

当時のまま保存されている施設からは、ハンセン病患者への人権を無視した対処の痛ましさを知るとともに、収容施設での生き様や生活環境に想いをはせることができました。

学芸員の方からは、今日学んでいただいたことを、それぞれの職場・地域で正しい認識を持つていただくように伝えてくださいと強くお願いされました。



実際に自分の目で見、確かめ、正確な事実に基づ

いた話を聞くことの大切さを改めて感じる事ができました。自分で確かめもせず、人聞きで知ったことを広めていくことの恐ろしさを感じずにはられませんでした。

旧閑谷学校は、庶民を対象とした学校建築物としては世界最古のものといわれている建物らしく清閑の地に庶民が学んだ学問所としての面影を残した建築物でした。特に、講堂の床や丸柱の光沢はここで学んだ生徒たちによって拭きこまれた見事な輝きを放っていました。教育を受ける者の心の清らかさを感じずにはいられません。なんとだか心を洗われた思いがいたしました。



学校教育部会から

学校教育部会では年間3回の人権・同和学習の公開保育・授業を行っています。24名の部員が授業を参観し、授業後の研究協議を通して人権課題の解決に迫る授業改造に努めています。

東古瀬保育園公開保育

●みどり組（5歳児）

●指導者 時本多恵保育士

●テーマ 「見て、聴いて、感じて、観えてくる子どもの心」～子どもの自己肯定感を育てる～



12月1日

滝野東小学校公開授業

●第4学年

●指導者 脇谷哲史教諭

●資料 「おい、わたしの口」
(ほほえみ)

●ねらい 「自分の欠点や過ちを素直に認め、自分を意欲的に変えていこうとする態度を育てる。」



11月19日

社中学校公開授業

●第3学年

●指導者 石井真史教諭

●主題 「奉仕」

●資料 「加山さんの願い」
(晩教育図書)

●ねらい 「ボランティアを通して学ぶ「奉仕」の精神について理解する。」



11月25日

心の窓

こころでつながるネット社会

～仕組みを知ることによって防げる被害～

様々な人権に関する話題をテーマに制作してきた人権啓発番組「心の窓」では、今回「インターネットと人権」についてみなさんと共に考えてみたいと制作しました。

お話を伺ったのは兵庫県情報セキュリティサポーターであり、加東市ネット見守り隊特別監視員として、ネット犯罪の防止に大きな役割を果たされている篠原嘉一さんです。

ようになります。「機械モノはわからないから」という無関心や「地方にはそんな被害は無いはず」という思い込みにつけこんでネット犯罪は起きています。

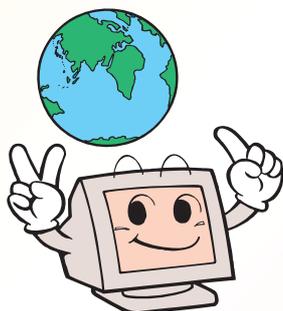
私たちの生活にすっかり浸透しているインターネット。生活がずいぶん便利になり、災害時の情報発信や、安否確認などに大きな役割をはたすなど、その「光」の部分の可能性はまだまだ発展途上で、目を見張るものがあります。

篠原さんは、それまでの子どもたちへのカウンセリング経験から、心身の傷に与えるネットの影響について早くから注目し、まず、子どもたちを見守る大人たちが、その仕組みを知ることが大切だと、関係機関と連携して被害防止に積極的に取り組まれています。

携帯電話やネットの特性を理解し、悪質な事業者や不審者がしかけるワナの存在を知ること、深刻な被害を回避しましょう。

一方「陰」の部分として、メールを利用したいじめ、悪質な書き込み、子どもたちを巻き込んだ犯罪など、インターネットを悪用した人権に関わる深刻な問題も発生しており、その手口も驚くほど巧妙になっています。

加東市においても、学校における研修会や「加東市ネット見守り隊」の取組により、子どもたちの深刻なトラブル被害の防止に大きな成果があがっています。子どもたち自身も仕組みを知ること、意識が変わり、安全な利用をこころがける



第5期加東市民人権講座修了者名簿

第5期加東市民人権講座を3回(補講を含む)受講し、修了書を交付された皆さんです。
様々な人権課題について学習していただきました。学んでいただいたことを地域やご家庭で実践していただきますようお願いいたします。(敬称略)

【社一区】	中尾克彦	【下鴨川】	光明悦也
【社二区】	原田孝章 横山 稔	【平木】	大西拓也
【社三区】	福田幸平 奥田泰五 進藤明義 北脇太郎	【上滝野】	小谷直美 安達真理 上野里美 黒崎待子
【社四区】	片岡正則 和田厚子	【下滝野】	津瀬俊雄 魚住文博 影山正明
【社五区】	小林吉人 阿江賢司 岡森正寛		田中としみ 松本眞智子 大久保政子
【藤田南】	塚本幸司郎	【新町】	丸山勝也 大久保崇史 竹内 司
【糖野団地】	大久保澄子		中江 肇 藤崎和之 桑田昌史
【山国】	井上恵美子 北谷秀子	【北野】	森本勝久 藤本豊記 齊藤寿代 秋原 登
【松尾】	井上 守		秋原千恵子 大村やす子
【出水】	大橋正明	【穂積】	藤崎伸央 神戸和哉
【田中】	堀内 実 堀内幸三郎	【稲尾】	中橋文代
【鳥居】	潤井 勇 潤井幸子	【曾我】	竹内保裕 竹内亜希
【貝原】	藤本淳子 吉田祐敏	【河高】	原 明美 藤井由利子 徳平明美 宇高康雄
【野村】	時井公子 藤本朱美 宮崎寿美代		藤井謹一
【西垂水】	上月昭彦	【高岡】	友藤豊造 平井正信 深田初枝 大西則昭
【窪田】	小西裕喜子	【桜台】	前田恵三
【家原】	山本二三秋 大橋智也 近藤知子	【天神】	藤原利和 藤原豊子 西山久美
【上中】	阿江教幸 藤井 剛 中井幸代		長尾真由美 都倉真奈美
【喜田】	石井英智 岸本正人 岸本泰志	【黒谷】	岡田みゆき 尾崎高弘 岸本 泉
【沢部】	藤井泰則	【古家】	沼田やちよ 藤井良太
【沢部団地】	町田裕子	【常田】	山本征一郎 岸本直美
【福吉】	玉井義明 玉井 誠	【秋津台】	山本成志
【上田】	上石 明 壺井和代 石井敏美 石井昭弘	【西戸】	藤田博秀 藤原利恵
【大門】	三原俊和	【少分谷】	新谷和佳
【西古瀬】	井上義則 井上悦子 友藤眞弓	【貞守】	谷 秀子
【中古瀬】	小林幸子	【長谷】	豊後栄二
【東古瀬】	西岡敏夫 内藤 完	【永福台】	宮本義和
【屋度】	岡田貴幸 常峰泰久	【横谷】	高尾有香 中川宣子
【東実】	宮崎 浩 山口良尚	【森尾】	西本和夫
【畑】	田中隆文 大槻ゆかり	【岡本】	田尻弘明 柴崎ひさ美 山下善知
【池ノ内】	藤原美智代	【新定】	藤原繁雄 澤谷光枝 松本通代 藤原桂子
【上久米】	大西満利子 藤原寛子 大西千里		澤谷真弓
【下久米】	西山 太 下山泰三 河村直樹	【吉井】	岸本吉正 伊藤賢吾 岸本正雄 岸本昌英
【久米】	柴崎弘毅 安田正記 山本正仁	【小沢】	山本信男 山本真紀
【上三草】	村岡 実 中村 勉	【栄枝】	谷 昭範 森 美佳
【下三草】	森本みどり 加門豊子 真嶋和子	【厚利】	片岡 照 片山英幸
【木梨】	白井吉則	【松沢】	藤原敏一 西村幸治
【藤田】	石古良一 藤原健治 藤原博明	【東垂水】	藤原定雄 藤原由紀子
【山口】	藤原良博	【大畑】	藤原洋一
【牧野】	藤本良三	【蔵谷】	出井義浩
【吉馬】	高瀬朋彦	【依藤野】	廣田みのり
【上鴨川】	西川 登 大畑典一	【嬉野東】	矢野晴信 立岡高昭

11月3日

児童虐待防止推進月間講演会 「しつけと体罰」

去る11月3日(祝)、社福祉センター大ホールにおいて、子育て支援課と共催し、『児童虐待防止推進月間講演会』が開催されました。

講師には、「森田ゆりさん」を招き、「しつけと体罰」という演題で、しつけとは何なのかについてご講演をいただきました。



ご来場いただいた皆さんのお声

◆虐待をしてしまう人に対する見方が理解できました。ダメな人、負の面を強調しがちな視点ではなく、その人の怒りを理解し、寄り添い、共に暴力をなくしていこうという立場に立つことを改めて思いました。〔50代女性〕

◆虐待は身近な問題であると思っ
ていなかったけど、意外と身近にあり、また自分にもあり得るのだ
と思いました。また相談にのるこ
とがあれば、このことを伝えたい
です。〔30代女性〕

◆体罰の裏側にあるものや体罰を
してしまふ人は、したくないのに
してしまふことがわかった。周り
の理解や支えが必要だと改めて感
じました。〔20代男性〕

◆「しつけ」コミュニケーション
という考え方は今までに無い発想
でした。「しかる」のではなく、『会
話する』ということの大切さを改
めて感じました。〔30代女性〕

11月26日

人権と福祉の まちづくりフェスティバル

去る11月26日(土)、滝野文化会館において、「人権と福祉のまちづくりフェスティバル」が開催されました。

講師には、「うぐみさん」を招き、「あなたに会えてよかった」というテーマで、歌を交えて実体験をご講演をいただきました。



ご来場いただいた皆さんのお声

◆命の大切さ、人への愛を感じま
した。人権と言うだけでなく、人
とのつながり、命、親への感謝を
感じ、涙が流れました。今ある命
を大切に誰かの役に立てたらと心
から思いました。今日ここに來れ
てよかった。〔50代女性〕

◆温かい歌声で心が癒されました。
「負けず嫌い」と言う言葉を何度
も使われましたが、その言葉を聞
くたびに奮い立つ思いがしました。
悲しみや苦しみをたくさん乗り越
えながら、人間のすばらしさや家
族の大切さ、音楽の力を噛みしめ

◆命の大切さ、人への愛を感じま
した。人権と言うだけでなく、人
とのつながり、命、親への感謝を
感じ、涙が流れました。今ある命
を大切に誰かの役に立てたらと心
から思いました。今日ここに來れ
てよかった。〔50代女性〕

◆話とすばらしい歌を聴き、人に
対する接し方を改めて反省しました。
心から歌のすばらしさを感じました。
ありがとうございます。〔60代
以上女性〕

人権啓発作品展

秋のフェスティバルにおいて園児による人権啓発作品を展示しました。
また、ショッピングパークBioで人権週間に、作品展を行いました。
子どもたちの心に育つ温かい心に触れる事が出来ました。



かがやけ!! みんなのえがお

世界中どこでも笑顔はみんなをつないでくれる。輝く笑顔こそ、しあわせへの扉!
社保育園 (5歳児)



こころをひとつに!

運動会の綱引きはみんなで力を合わせて引っ張った!
芋掘りでも心をひとつに...

社保育園 (4歳児)



みんなでいただきます!

ごはんはみんなで楽しく食べるともっとおいしくなるね。
みんな揃って「いただきます!」

椿山保育園 (5歳児)



届けよう! 私のこころ

一人ひとりが自分の気持ちを手紙に書きました。たくさんのお友達に届きますように!!

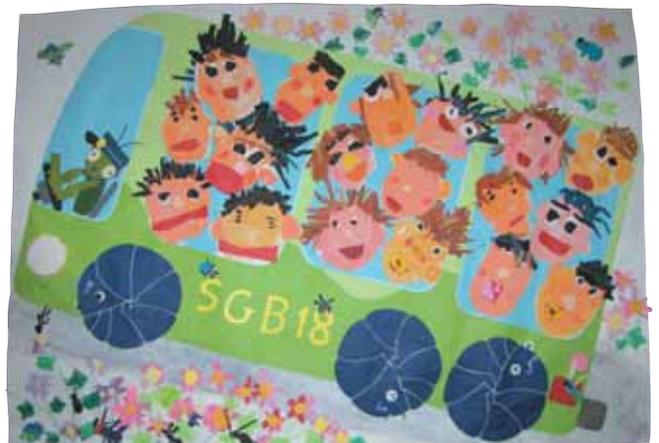
泉保育園 (5歳児)



とどけ! 僕らのメロディ

僕たち、私たちのメロディが、青い空に響くよ!
笑顔いっぱいの世界になりますように!

正覚坊保育園 (5歳児)



ニコニコバス、出発

き組の笑顔のをせたバスがいろいろな所を走るよ。
みんなを楽しく、元気にできたらいいな!

正覚坊保育園 (4歳児)



雲の上のオーケストラ

「アンパンマンマーチ」と「上を向いて歩こう」が
被災地のみんなに届きますように。

東古瀬保育園 (5歳児)



ありから見れば

『蝶々さんも、ありさんも
みんなみんな大切な命だよ』

東古瀬保育園 (4歳児)



夢たまご みつけた!

どこにある? どんないろ? ぼくたちの夢が見つかった
“たまご” きっと見つけてみせるよ。

三草保育園 (5歳児)



たのしい うんどうかい

友達と協力して組み立て体操をしています。
国旗にも興味を示し、いろいろな国を知りました。

米田保育園 (4・5歳児)



みんなで清水登山

月一回の清水登山を通して他園と交流も深めています。
子ども達は自然が大好きです。

鴨川保育園 (3・4歳児)



あくしゅで なかよし

ともだちとあくしゅをすることで、こころがつうじあい、
なかよくなってほしい。

天理滝野愛児園 (5歳児)



咲かせよう 希望の花

きみがいて、きみといて、みんなが繋がって
ひとつになって「希望」という花が咲く。

高岡育児園 (4・5歳児)



はじける!! えがお

みんな なかよし みんな なかま えがお あふれる
あかるい クラス なかまが いるって たのしいね

加茂保育所 (5歳児)



てとてをあわせて

てとてをつなぐと きもちがつながるよ。
みんなでつなごう、あったかいて。

河高保育園 (5歳児)



気持ちをひとつに

小さな力を合わせると大きな力が生まれたね。
皆が輪になればステキな笑顔があふれる。

東条保育園 (4歳児)



みんなでおかいもの

大きい組、小さい組、保育園のみんなで作成し、
お店屋さんごっこを楽しみました。

秋津保育園 (5歳児)



ぼくらはスイミー

大きな魚になったスイミーみたいに皆で力を
合わせたら色々な事が出来るから楽しいよ。

緑ヶ丘保育園 (5歳児)

秋のフェスティバル

【社中央体育館】

11月5日(土)
6日(日)



社中央体育館で
啓発コーナー

標語入り風船の配布



加東市人権啓発展

【やしろショッピングパークBio】

12月1日(木)~14日(水)



多目的ホールで啓発展開催

悪の自然災害とされる、東日本大震災のニュースです。私はこのニュースに幾度となく、泣かされました。一番初めにそのニュースを目にしたのは、地震が発生した日です。学校が終わり帰宅し、何気なくテレビをつけました。まず最初に目に入ったのは津波。家や道路を飲み込みながら地を這うように進んでいく黒い津波でした。どのチャンネルに変えても地震のニュースばかりで、いつもと違う状況に少しだけ面白く思いました。その日からずっとテレビは地震のニュースばかりになり、見るものがなくなった私は退屈していました。地震のことはばかり報道されるテレビ画面を気だるく見ながら、「学校休めていいよな、地震とか」とまでつぶやいていたのです。

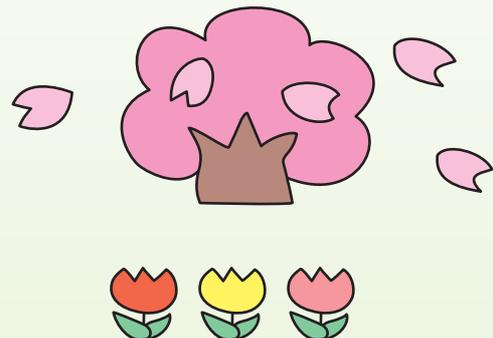
ある日、中々寝付けなくて深夜にテレビをつけたときがありました。テレビは相変わらず地震のニュースばかりでした。適当にチャンネルをいじっていたら、ある映像を映しているニュースで私の指が止まりました。それは男性がテレビ記者の前で泣き崩れている映像でした。その男性は津波の被害に遭い、危うく津波に飲まれそうになったけれど、生き延びた人達の1人でした。皆さんは何故泣き崩れているのだと思いますか。その男性は生き残れたことを喜び、泣いているわけではないのです。男性が語るに、その男性には奥さんと子供がいて、津波が襲ってきたとき間一髪で家から逃げ出したのですが、津波に追いつかれ、電柱にしがみついで津波の水圧に耐えていたそうです。片手に奥さんと子供を抱えて。しかし、引き潮に腕が耐えられなくなり、奥さんと子供を離してしまったそうです。男性はなんとか生き延びたものの、2人は行方不明のままでした。あの時2人を離してしまったことが、悔しくて、辛くて、悲しくて、と男性は泣き崩れていました。カメラが回っているにも関わらず、顔をぐしゃぐしゃにしながら、涙声でそれを語る男性を見て、胸が苦しくなったのを今でも覚えています。その時思いました。自分がどんな気持ちで地震のニュースを見ていたのか、と。思い出すと同時に自分が恥ずかしくてなりません。こんなに被災した方々は精神的にも苦しんでいるというのに。男性の泣き崩れている姿が目には焼きついて離れませんでした。その瞬間、無意識に涙が溢れてきたのです。

人権作文を書くにあたって、私の中に疑問が浮かんできました。「人権作文を書くことに何の意味があるのだろうか」と。確かにただ作文を書くだけでは、何も変わりません。ですが、そう思っているうちは何にもならないのではないかと考えました。気づくのが遅いかもしれないけれど、私は人権作文を書くことで、自分の意見を見直すことができました。ありきたりな言葉でもいいから伝えたいです。

命の重さとは何でしょう。どれくらいの重みで、それはどうすれば感じられるのでしょうか。私には分かりません。ですが、家族を失ったあの男性はその重みを感じたと思います。津波に飲まれそうになった自分の命と、片手に抱えた2つの命の重さを。男性は決して悪いわけではないのです。でも、男性にとってその出来事は、忘れたくても忘れられないもので、あの時感じた恐怖と感触、重みを何度も何度も何度も思い出して、自分を責め続けるのだと私は思います。おそらく、一生。命の重みと責任はいつまでも等しい重みを持ち、それを背負い続けるであろう男性のことを考えると、また、泣きたくなりました。

日本は今回の東日本大震災以前にも、長い歴史の中で、何度も戦争をし、災害に遭い、数え切れないほどの焼け野原ができました。そして、何千、何万もの人々が亡くなっていきました。でも、何度も復興してきました。

今回のことを通して、またこれまでの日本の歴史から、私は命の大切さを学びました。だから私は、これから自分の命を大切にしたい。生きていることに歓喜し、自分が恵まれていることに感謝したい。そう強く思いました。





「高齢者と 生きていくうえで 大切なこと」

東条中学校
3年 平川 真帆

私には、97歳になるひいおばあちゃんがいます。ひいおばあちゃんは、軽い認知症で耳もおく話も大きな声を出して話さないと聞こえません。しかし、週に三日ひいおばあちゃんが老人ホームから帰って来たときに私が「おかえり。」というニコッと笑ってくれます。おばあちゃんに「誰が分かる？」と聞くと「誰か分からん。」とおばあちゃんは言います。

そして、「私やで。真帆やで。」と言ってあげると「ああ、真帆かあ。」と言ってまた笑います。

私はそんなひいおばあちゃんの笑った顔が大好きです。

今、日本では高齢者で孤独死する人が増えてきています。その人達は1人ぼっちで寂しかったのではないのでしょうか。そして、誰からも「おかえり。」と言ってもらえず心の中では笑顔あふれる家庭がうらやましかったのではないのでしょうか。私はこれまでたくさんの良い言葉、つまり心に残る言葉を聞いてきましたがその中で私が好きな言葉は「辛いという字に1本たせは幸せになる。」という言葉です。家族がいなくて辛くても、周りの人が助けてくれたりしたらその人は幸せになって悲しい人生をおくらなくてもよくなっていくのです。

そう考えてみると、やっぱりうちのひいおばあちゃんは幸せ者だなんて思います。いつもおじいちゃんとおばあちゃん・父・母・弟・家族みんなの支えがあるから笑っていられるのです。

ひいおばあちゃんは、誰からも話しかけられずしょんぼりしていることがあります。でも、家族が話しかけてあげるとやっぱりニコッと笑うのです。そして、側を離れるまでいつまでも「学校はどう？」とか「今日は何日？」とか言って話し続けます。

私のひいおばあちゃんは、認知症だし耳はとおいし他人から見れば特別な人のように見えてしまうかもしれません。しかし、ひいおばあちゃんが車イスに乗って外へ出るとたくさんの人が話かけてくださいます。私は、それを見るたびに「ああ、ひいおばあちゃんはたくさんの人に愛されながら生きてきたんだなあ。」って思います。そして、いつか私もそんな存在になれたらいいなってひいおばあちゃんを尊敬します。

私は、本当にひいおばあちゃんが大好きです。しわくちの顔でいつも笑ってくれるひいおばあちゃん、話しかけると楽しそうに話を聞いてくれるひいおばあちゃんそして時々しょんぼりしているひいおばあちゃん全部全部大好きです。

そして、これからも「おかえり。」と声をかけてあげたいです。

これからも、ひいおばあちゃんの笑った顔が見られるように私にできることは手伝って支えていけるようになりたいと思います。



「命の重みと責任」

兵庫教育大学附属中学校
3年 中村 美里

皆さんは、ニュースを見て泣いた経験はありますか。ニュースで涙を流す、ということはおかしいと思いますか。私は、ニュースを見て突然涙を流す人を見たら、おかしいと思ったかもしれません。おそらく、2011年3月11日までは。

私はニュースで泣いた経験があります。それは、まだ記憶に新しいニュースでのことです。昨年の3月11日から今日まで毎日、休むことなく放送されているニュースがあります。「東日本大震災」、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震と、それにともなって発生した津波、及びその後の余震により引き起こされた、大規模災害。日本における観測史上最大の規模、マグニチュード9.0を記録し、今も尚、放射能などの影響が残る、第二次世界大戦後最

れることがなぜ女の子だったら許されないのか」いつも私は疑問に思っていました。特に私の両親は何かと言うと「女の子なんだからー。」と口癖のように言って来ます。私は両親が望んでいる「行儀がよくて、おとなしい女の子」ではなく、活発でどちらかと言うと男の子っぽい言動をとってしまいます。言葉使いもよく注意されます。でも男らしさ、女らしさというものはそもそもどういうことでしょうか。どうして「女の子だから」ということで言動を束縛されないといけないのか」と疑問に思います。

両親が子供の頃は、男の人は会社でも女の子の人より立場が上で女の子は男の人にお茶を入れたり補助のような仕事をするのが多かったようです。だから家の中でも、父親は外で働き、母親は家事をする、子育てをするというのが当たり前と思われていました。また、男の人は少しくらい乱暴な態度や言葉使いをしても誰も何も言わないけど、女の子は“上品に…”ということが普通の感覚でした。

しかし、今は違います。女性の社会進出により、男女とも、同じ条件で仕事ができるようになってきています。同じ立場で、同じように働いています。家庭の中でも、最近は男の人が家事をする家庭もあります。だんだんと男性、女性の区別はなくなってきました。

小学校の頃に男女一緒に調理実習をしました。私は当然女の子の方が料理ができると思っていましたが、私より手慣れていて上手な男の子がいました。その時私は改めて、「男女関係なくやはりできる人は、素敵だなあ」と感心しました。

これまで私はいろいろな経験や学習をしてきました。その中で「女の子」、「男の子」の違いは、まわりからの見方や体型だけでなく、性格や考え方が微妙に違うということが分かりました。私の家は男の人が祖父と父だけです。あまり男の人と関わったことはありませんでした。それに、祖父や父も優しくておだやかな人だから、特に男女の違いには、違和感を感じませんでした。保育園の頃は男女の区別は全くなく、一緒に仲良く遊んでいました。小学校の中学年の頃から男女の間にちょっとした壁が出来始め、けんかをしたり、男の子と女の子の違いを感じ始めていました。

男女ともお互いの気持ちを、分かり合おうともしませんでした。だから高学年になるにした

がって、壁が厚くなって話す子も減り、仲良く遊ぶ子もとても少なかったです。けどどうして壁が出来たのかがよく分からないまま、中学校に入学してきました。入学して驚いたのが、東小学校出身の子は私の出身の南小学校の子と違って男女の壁がほとんどなくとても仲が良かったことです。私が東小学校出身の友達に、「男子と仲良いね。」と言うと「え、普通じゃない？」

と言われました。男女が仲が良いということは、男女を意識したり、区別したりしていなかったり、男子の気持ちが分かったり、理解しようとしていることだと思いました。私は、初めて「女の子だから」という言葉に反発しながらも、私自身が知らず知らずのうちに男女を区別してしまっていたことに気づきました。

「男子だから」「女子だから」ということより、女子の中にもいろいろな人がいて、おとなしい人、元気で活発な人、素直な人などさまざまです。男子も同じように、いろいろな人がいて当然のことです。思春期になって異性に関する勉強を学校でも何回かして来ましたが、私はそれほど男女の違いについて深く考えてこなかったけど、保健の勉強を通して今まで疑問に思っていたことの中で、体や心の違いは少しずつわかってきた気がします。

しかし、話はもどしますが、どうしても、「女の子なんだから。」と言われることには、納得できません。私の中で、男の子と壁ができたのも、この私の中で矛盾する「女の子なんだから」という言葉が関係してきているという気がするし、「女の子だから」と行動範囲を制限されて、言動も束縛されて、嫌な思いをしてきた人はたくさんいると思います。

体力的な差は確かにあるけど、女の子でも何でもやる気があればやれるということを知ってほしいと思います。

男らしさ、女らしさについて、正直、まだはっきりよく分かりません。でも、女の子にしかできない細かいところまで気を配ったり、思いやりたりする気持ちや、男の人だけが出来る思いやりはあると思います。お互いに助けあって、お互いに尊重して、「男の子だから」「女の子だから」ということにこだわらず、お互いを理解し、一人の人間として、成長していけたらいいと思います。



『感謝を伝える』

社中学校
3年 上月 理紗子

「人に感謝を伝えること」。それは、簡単そうに聞こえますが、実はとても難しいことです。もし、みなさんが「一番感謝をしている人は誰？」と問われれば、どのような人が思い浮かぶでしょうか。私は「家族」を思い浮かべます。

しかし、そんな思いとは裏腹に、私の日常は反抗ばかりしている毎日です。「ありがとう」どころか、素直に話すことも最近できていません。自分自身の中に「反抗期」「そういう時期だから仕方がない」と言い訳をしている自分がいるのです。どんどんエスカレートし、家族を大切にしていない自分を、見て見ぬふりをしながら毎日を過ごしてきました。

そんな中、ある出来事が起こりました。「おじいちゃんが入院した。顔が青ざめて、倒れたから、救急車が来たんやで。」

学校から帰宅した私に祖母が、どこか寂しそうに、しかし、しっかりとした口調で言いました。

「何で？昨日まであんなに元気やったやん。それで、おじいちゃんは大丈夫なん？」

心配で何度も何度も問いかけました。頭が真っ白になるというのはきっとこういうことを言うのだろうなと思ったことを覚えています。幸いにも祖父は回復し、今では元気な笑顔を見せてくれています。

この経験が私の考えを百八十度変えることになったのです。大切な人が元気に笑顔でいてくれる。これ以上の幸せはありません。しかし今、私を支えてくれている家族や友達、先生のような大切な人が、いつまでも私の側にいてくれるとは限りません。当たり前のように毎日出会い、話をし、笑い合える大切な人が急にいなくなる事だってあり得るのです。もし、あのとき祖父が大変なことになっていれば、私は大切な人のありがたみを、失ってから知ることになった

のかもしれませんが。

あの日を境に、私は側にある幸せを実感しています。そして、感謝の気持ちを伝えるという行為がどんなに大切かを知り、素直に伝えたいという気持ちが芽生え始めました。

私達は、生まれたときは一人ですが、大きくなるにつれていろいろな人と巡り会います。時に他人は自分を大きく成長させたり、生きる糧となったり、人を心から愛おしいと思える気持ちを教えてくれたりします。自分の生活の大半は他人によって支えられていると言っても過言ではありません。だからこそいつどんな時も感謝する心を忘れずにいたい。人の優しさを当たり前にあるものだと思わないでいたい。今日と同じ明日が必ず来るとは確信できないのです。突然の天災で多くの大切な物や人を失うことも現実としてあるのです。このようにいつ何時、何が起こるかわからないこの世の中だからこそ、「今」というこの時がどれほど大切なのが実感できます。だから普段から自分の思いを優しく素直に相手に届けていくことが一日一日を生きていく私たちにとってとても大切なことだと思うのです。感謝の心とともに…。

感謝を伝える相手は家族であったり、友人であったり、先生や大好きな恋人であったりと様々ですが、伝えたい相手が身近であればあるほど素直になることは難しいことだと思います。しかし難しいからこそ素晴らしいことだとも思うのです。だから私は、大切な人に素直に感謝の気持ちを伝えていきたいと思います。そして、私の人生をもっともっと素敵なものにしていきたいです。



『女らしさ、男らしさって何?』

滝野中学校
1年 山田 万里子

「女の子なんだからー。」これは私の日常生活の中でよく聞く言葉です。「男の子だったら許さ

ビデオ紹介

「桃香の自由帳」

共生社会と人権つながり・ささえあう わたしたちのまち
(DVD 36分)

24年度の地区学習会で使用していただく予定のビデオです。



・登場人物の言動を通して「人とのつながり」を自ら断っていないかを振り返ります。

・「きずな」とは、生きることの素晴らしさや喜びにつながるということを認識します。
一人ひとりが地域社会



を担う一員であることを自覚し、支え合い、助け合うことの大切さを考えます。

「探梅 春、遠からず」

(アニメDVD 40分)

「排除」や「孤立」を生み出す社会ではなく、お互いに違いを認め支え合い、あらゆる人を包み込む社会へと導きます。



「小学生のための人権」

パート1 「思いこみに気づく」
パート2 「大切なわたし大切なあなた」
(DVD 各15分)

パート1 「思いこみってなんだろう?」「ちがいを受け入れる」の二つのテーマを通して、「思いこみ」について考えさせる内容です。

パート2 「きずつくこと きずつけること」「大

切な自分 大切なみんな」をテーマに、「大切なわたし大切なあなた」を子どもたちに考えさせます。



「心のケアと人権」

(DVD家庭編 18分)
(DVD職場編 22分)

家庭編 家庭でうつ病を支えるために求められる人権意識と対応法を紹介しします。

職場編 うつ病の社員への周囲の配慮と対応の仕方、必要な職場環境のあり方を考えていきます。



「今、地域社会と職場の人権は!」

(DVD 17分)

さまざまな人権課題に視点をあて、地域・職場の中に潜んでいるさまざまな人権問題について「気づき」鋭い人権感覚と豊かな人権意識を身につける学習教材用ドラマです。



「加東市人権尊重のまちづくり実施計画」を策定

実施計画の対象期間は、平成24年度から平成28年度までの5年間です。

内容は、「加東市人権尊重のまちづくり基本計画」の取り組みの方向等を補うものです。ただし、基本計画に掲げる全てについて示したのではなく、主として行政の実施事業（人権尊重にかかわる施策）に関して具体的な方針等を定めたものです。

実施計画の全文を市ホームページに掲載し、概要を広報かとうに掲載していますので、ご覧ください。

発行

加東市教育委員会
加東市人権・同和教育研究協議会

〒679-0292

兵庫県加東市下滝野1269-2 (滝野庁舎)
TEL 0795-483598 FAX 0795-483705